

1 基本計画の改定に至る背景

【国の高等教育政策の新たな方針】

- 大学の量的規模の**適正化**
- 理工、デジタル人材育成の**強化**
- 人文・社会系学部の**ダウンサイジング**
- 設置認可審査の**厳格化**

【基本計画策定後の新たな課題】

- 文部科学省との意見交換や具体的な事業化検討を進める中での**認可取得の確実性を高める必要**
- 財政負担、学生確保、大学運営の効率化及び地域課題への対応への早期実現の要請**

2 基本計画改定の目的

- 基本計画の**理念を継承**しつつ、**認可取得の確実性向上**、**財政負担の軽減**、**開設時期の早期化**を図るため、**組織形態、学部構成及び開設時期をブラッシュアップ**し、新大学構想をより**実現可能な形へ具体化**
- 公立大学として地域目線**を基本としながら、**グローバルにも活躍できる人材育成**を視野に、**岐阜市の高等教育全体の再編**により、**効率的で高い教育研究成果の発揮をめざす**

3 目指す大学の在り方と方向性

1 法人 1 大学化

- 「新大学の設置」から「**市立大学の統合**」へ
- 「岐阜薬科大学」と「岐阜市立女子短期大学」は「（仮称）**岐阜市立大学**」として**1 大学化**

学部の再編

- 女子短期大学の教育研究を基盤に**新たな理系学部**へと発展
- 薬学部と新学部の**2学部体制**へ

教育の質向上

- 両大学の伝統や歴史、高度な教育研究の実績を活かし、**強みをさらに発展**
- 市立大学としての**新たな価値創出とブランド力向上**

4 新学部・教育体制・定員

- 1 学科 2 コースで構成**
 - ✓ データサイエンス系コース
 - ✓ 建築・デザイン系コース
- 入学定員**
 - ✓ 大学基本計画と同規模（100～120人程度／学年）を想定
- 社会科学系学部の教育内容は全学共通の教育課程**として位置づけ、文理融合の教育体制を想定

5 新学部の教育研究内容

【教育目標】

- デザイン力とそれを支えるデジタル技術で未来をけん引するクリエイティブなエンジニアを養成

【教育研究課程】

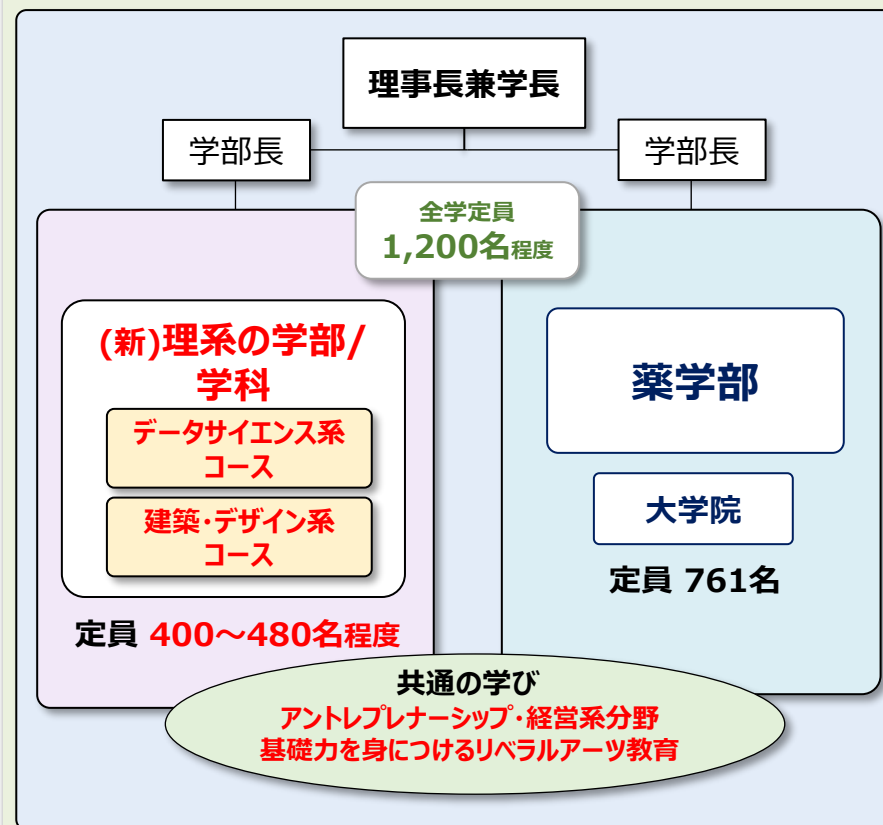
- プロダクトデザイン、建築、情報工学、デジタル技術を含む専門科目と実践的なPBLの実施

【想定する育成する人材像】

- データサイエンス系コース**
ビジネスデータサイエンス、医療データサイエンス等の分野で活躍する人材
- 建築・デザイン系コース**
建築、プロダクトデザイン等の分野で活躍する人材

岐阜市公立大学法人

（仮称）岐阜市立大学のイメージ



- リカレント教育の提供や高大連携・接続の強化**については、現基本計画の方針を踏まえ、引き続き検討
- 大学院や附属機関**の在り方などについても、岐阜薬科大学の体制を活用することも含めて、引き続き検討を重ねる

6 新学部の開設年度（スケジュール）

- 令和11（2029）年4月開設を目標

7 新学部のキャンパス

- 開設当初は**岐阜薬科大学三田洞キャンパス**を活用（現在、薬学生1～3年生が利用）
⇒既存施設を最大限活用することで早期開学を実現
- その後**香蘭地区の新キャンパス整備**の進捗に合わせ**移転**

8 新学部の運営費（想定）

【収入】

区分	金額	備考
学生納付	2.6億円程度	収容定員400～480人程度を想定
外部資金	0.3億円程度	科研費間接経費、外部受託研究費等
一般財源	7.6億円程度	運営費交付金(地方交付税算定：7.6億円程度)
計	10.5億円程度	

【支出】

区分	金額	備考
人件費	6.0億円程度	教員費など
物件費	4.5億円程度	教育研究費、学生経費、管理経費など
計	10.5億円程度	

詳細な運営費については引き続き精査する